

2018年12月

両国

12月18日 (火) 晴れ

★ 3日ほど続いた寒気も去り、師走とは思えないような小春日和で、空は雲一つなく真っ青であった。参加者は19名で10月に並ぶ大人数である。

★ 午後2時に両国駅に到着した。西口を出れば3分足らずで国技館である。まず相撲博物館に入った。入口を入ると行司の装束が目に入った。染色図案家・初代若松華瑤がデザインしたものが中心で、30代木村庄之助や10代式守与太夫が使用した豪華絢爛たる装束のほか、軍配、脇差、印籠などが展示してある。日本の工芸品の素晴らしさを見ることができた。陳列ケースの反対側の壁面には初代明石志賀之介から第72代稀勢の里まで、歴代の横綱の名前が書きだしてある。各々が最良にしていた横綱の思い出話などをしながら昔を懐かしんだ。

展示はそれだけで10分ほどで見終わってしまった。「博物館」というのもっと広い場所を想像していたので見学時間を40分ほど見込んでいたが、お土産品などを売る売店を覗いてもまだ時間が余ってしまった。狭い展示場なので時々展示内容を変えているのだそうである。

国技館正面に並んだ白鵬、鶴竜、稀勢の里の三横綱と一緒に記念撮影をした。



★ 国技館を後に北へ100mほど行くと旧安田庭園である。旧安田庭園正門の向かいのビルの横に小さな「花の生涯 舟橋聖一生誕記念碑」がひっそりと立っている。気が付かないで通り過ぎる人が多いようだ。

旧安田庭園は元禄年間に徳川五代将軍・綱吉の生母である桂昌院の実弟で、後の常陸国笠間藩主、本庄因幡守が下屋敷として拝領し、この庭園を築造したものと伝えられている。中心に「心」字をかたどった池を配し、隅田川の水を引き入れ、潮の干満によって変化する景観を楽しむという趣向である。明治になって旧岡山藩主・池田侯爵邸となり、更に安田財閥の創始者である

安田善次郎の所有となった。正門を入ると池越しに青空に東京スカイツリーが聳え立っているのが見える。池畔にはまだ紅葉した木が残っていたり、雪吊りをした松があったりして都心にいることを忘れそうな景色である。海が近いので鷗の鳴き声も聞こえる。



★ 旧安田庭園の裏門を出て道路を横断すれば横網町公園である。ここは元陸軍被服廠のあった所であるが、赤羽に移転した後東京市が買収して公園として整備したものである。工事の最中に関東大震災が発生し、周辺の下町一帯から多くの人々が避難してきたが、地震で発生した火災による熱風が人々を襲い 38000 人の人が犠牲になったという。また第 2 次世界大戦中の東京大空襲で亡くなった人々の遺骨が仮埋葬された場所でもある。現在は「東京都慰霊堂」があり、毎年 3 月 10 日と 9 月 1 日には法要が営まれている。慰霊堂の中は教会の礼拝堂のように椅子が並び、壁面には戦争や火災の悲惨さを描いた絵画が飾られている。



★ 公園の東側の出口を出て清澄通りを南へ 250m ほど行き、左折して更に 250m ほど東へ行くと緑町公園である。ここは葛飾北斎生誕に地であり、公園の南に「すみだ北斎美術館」がある。妹尾和世の設計により 2016 年 11 月に完成したもので、外壁にアルミパネルを使用しているので周囲の風景を写し込んで非常に印象的である。時間の都合で常設展だけしか見学できなかったが、北斎の生涯における代表的な作品の実物大の精細なレプリカが展示してある。アトリエも再現されていて、北斎と娘・お栄の模型がまるで生きているように動くので驚いた。



- ★ 緑町公園は元津軽家の上屋敷のあった所で、すぐ向かいには江川太郎左衛門の屋敷もあった。津軽家上屋敷の一面には相撲の高砂部屋があり、明治18年(1885)に親方の高砂浦五郎が相撲の神様として知られる野見宿禰を祀った野見宿禰神社がある。小さな社殿と歴代横綱の名前を刻んだ石碑が2基立っている。



- ★ 野見宿禰神社から南へ。総武線のガードをくぐり、京葉道路に出て右折して両国駅方面に向かう。清澄通りを渡った先で左折すると両国公園があって、そこが勝海舟の生誕地である。公園の一面に「勝海舟生誕之地」と書かれた石碑と勝海舟の事績を紹介する説明板が設置してある。午後4時半を過ぎて日もとっぷりと暮れてきたが、近所の子供たちが元気に走り回っていた。両国小学校を挟んで吉良邸跡(本所松坂公園)がある。言わずと知れた赤穂四十七士が討ち入り、吉良上野介の首を取った現場である。今は30坪ほどの小さな公園であるが、当時は2550坪もある広大な屋敷であったという。



- ★ 吉良邸跡から京葉道路に戻り回向院に着いたのは5時近く。忘年会の時間も迫っていたので境内には入らず回向院の門を拝んだだけということになった。

忘年会は両国駅近くのちゃんこ料理屋「江戸沢」で5時から7時まで。熱々のちゃんこ鍋とお酒飲み放題で談論風発、今年一年の散策を振り返り、また来年も元気に歩くぞ！ と誓いあってお開きとなった。



志賀さんの俳句です。

大禍二度 寒風つのもる 慰霊堂
絶筆の 北斎画観る 冬日和
相撲甚句 流るる隅田 冬景色

参加者 奥野和雄、金児利行、金子正男、河合宏則、古賀良郎、小島恕雄夫妻、
志賀勉、辻直邦、滑志田隆、原田一彦、水野聰夫妻、水野博司、安井義彰夫妻、
安村長生、臼井静江、中村仁美 以上 19 名

写真と文 小島恕雄